



みんなかがやく！（江東区教育委員会テーマ）

ブリリアンス Next Stage 第10号

～ありのままに今を輝く～

江東区立南砂中学校だより



校 長 近藤 啓太

部活動について、皆様にご理解いただきたいこと 学校評価(中間)アンケートから

- ◎部活動(運動部)を増やしてほしい。(1年保護者)
- ◎部活顧問を担当される方は、少しでも経験のある方を希望します。また、しっかり子供達の意見を聞き、尊重出来る方をお願いしたいです。(3年保護者)
- ◎部活動において、技術指導はできているのかもしれませんが、子供に対しての教育にはまだ到達してはいない。指導者の質の向上、ハラスメント等の安全管理を重視していただきたい。(3年保護者)
- ◎部活動の時間が冬の間短いから運動部のためにもう少し長くしてもいいと思います。(3年生徒)

生徒の「やりたい」という気持ちを、学校として大切にします。一方で、学校の部活動は、希望する部活動を自由に増やしたり、専門的な経験のある教員を配置したりできる仕組みにはなっていません。

(1) 顧問が、その競技の専門家とは限りません

学校の教員は、教科を教えることを専門としています。そのため、経験がない者が顧問になることがあります。学校の教員が部活動を支えることと、競技の専門家が技術を指導することは、別のこととして考えていたが必要があります。もちろん、外部指導者や地域の方の力を借りるなど、学校だけですべてを担わない仕組みが大切になっています。

(2) 「部活動を増やす」には、教員の人数という限界があります

新しい部活動をつつくるということは、単に「活動場所と道具を用意する」だけではありません。顧問、活動場所、安全管理、大会への引率、保護者との連絡、けがや事故への対応など、さまざまな仕事が必要になります。そのため、生徒の希望を大切にしながらも、学校として安全に、継続的に活動できる体制がつかれるかを考える必要があります。

(3) 部活動は「先生の職務」ではありません

これまで学校では、教員が授業だけでなく、部活動も当然のように担ってきました。しかし、部活動の時間にも、授業準備や教材研究、成績処理、学級・生徒への対応など、教員が行うべき仕事があります。また、多くの学校では、教員が休憩時間に十分休憩を取れないまま、部活動の指導をしています。(本校の教員の休憩時間は15時40分から16時25分です)

(4) 活動のあり方そのものが変わろうとしています

現在は、教員の長時間勤務を見直し、学校だけで部活動を担うのではなく、地域のスポーツ・文化団体などと連携していく方向に国も動いています。これは、「部活動をなくす」という話ではありません。生徒がスポーツや文化活動に親しむ機会を守りながら、その活動を学校の教員だけに背負わせない仕組みに変えていくという考え方です。これからは、学校、地域、外部指導者などがそれぞれの役割を担いながら、生徒の活動を支えていくことが重要になります。

【最後に】「もっと活動したい」「こんな部活動をやってみたい」「専門的な指導を受けたい」という生徒の思いは、大切なものです。だからこそ、「先生が何でもやってくれる部活動」から、「学校・地域・専門家・生徒が、それぞれの力をもち寄ってつくる活動」へ、と変わっていくことが求められています。

参考：文部科学省・スポーツ庁の公式資料

- 部活動改革及び地域クラブ活動の推進等に関する総合的なガイドライン(令和7年12月)



「子供達の意見を聞き、尊重すること」「ハラスメント等の安全管理の重視」は、教師として最も大切にしなければならない教育の本質です。指導の在り方(特に人権尊重の理念)については全教員に指導をしていきます。お気づきのことがありましたら、本校管理職にお知らせください。

なお、バドミントン部に続いて、10月よりテニス部とデジタルクリエイティ部が「部活動地域展開」として休日の部活動指導を地域クラブに委託します。

【夏季休業中の（教員）校内研修】

○7月21日（火）業務改善のワークショップ

都教委「学校業務改革支援事業」の一環として、教員の働き方見直しを進めています。外部専門家の支援のもと、月45時間を超える時間外労働の削減に向け、行事・テスト・部活動等の課題抽出と改善策を協議しました。後期からの時程変更もこの話し合いを反映したものです。



○8月31日（月）全生徒が安心して学べる学校づくりを目指して

特別支援教育スーパーバイザーの田村康二郎先生を講師にお迎えし、「発達障害理解に基づく指導・支援の工夫」をテーマに校内研修会を実施しました。今回の研修では、発達障害(ASD、ADHD、LDなど)をはじめとする多様な特性のある生徒への理解を深く掘り下げ、日々の教育活動や支援にどのように活かしていくかを全教職員で学びました。



※長期休業中は、教員にとって研修の絶好の機会です。学校経営方針の下、全ての教員が課題意識をもって各種研修会等に参加しています。



【2年生移動教室（9月13日～15日）】

○1日目 諏訪市班別行動

班長を中心にまとまって、諏訪大社や高島城などを計画通り巡りました。準備期間は短かったものの、班行動の基本ルールが定着しており、諏訪湖畔の美術館巡りの後は、みんなで足湯を楽しみました。

○2日目 カヌーとハイキング

秋空の下、白樺湖でカヌーを楽しみ、午後はゴンドラで御泉水自然公園へ。苔やサルオガセ、リンドウなどの豊かな自然に触れながら散策しました。夜のレクも変更を乗り越え、大いに盛り上がりました。

○3日目 ほうとう作り体験

耕福館のスタッフの話をよく聞き、安全においしいほうとうを作りました。普段から残菜が少ない2年生らしく、多くの班が大鍋を完食しました。

【日課変更のお知らせ】「朝学習」「昼読書」の一本化について

後期より、これまで実施してきた「朝学習」と「昼読書」を統合し、「朝読書・学習」として一本化します。

変更の目的

(1)教員の業務改善・適切な休憩時間の確保

教員の負担軽減と法令に基づく適切な休憩時間を確保し、より充実した指導につなげます。

(2)放課後時間・下校時程のゆとり確保

午後の時程を15分繰り上げることで、部活動の時間を確保しつつ、遠距離通学の生徒も含めた安全な早期下校を実現させます。

読書・学習活動の継続

本校の生徒は区平均と比べても読書意欲が非常に高く、読書習慣が定着しています。この豊かな読書文化を維持・発展させるため、朝の時間を「週4日は読書」「週1日は『よむYOMUワークシート』』として活用し、引き続き学力の土台となる読解力・思考力を育ててまいります。

保護者の皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。